

(電子メール施行)
農 技 第 1 3 4 7 号
令 和 5 年 6 月 1 4 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察技術情報 第 1 号を發表します。

本年作の県内圃場において、コムギ黄さび病を確認しました。本病は伝染が非常に早く、蔓延すると減収につながるので、次年度に向けた防除対策についての指導をお願いします。

令和 5 年度 病虫害発生予察技術情報 第 1 号 コムギ黄さび病の発生について

- 1 対象作物 小麦
- 2 病虫害名 *Puccinia striiformis*
- 3 発生状況について
 - (1) 令和 5 年 5 月上旬、農林水産技術総合センターの小麦圃場で、コムギ黄さび病の発生が認められた (写真 1、2)。また、5 月下旬の巡回調査において、西播磨地域では発生は確認されなかったが、東播磨及び丹波地域で本病の発生が確認された。特に東播磨地域の 1 圃場では発病茎率が 66%であった。本病は発生量、発生地域が年次によって大きく変化するが、近年、本県においてその発生は確認されていなかった。
 - (2) 病徴はこれまでも発生が認められていた赤さび病と異なる (写真 3)。
- 4 発生生態
 - (1) 本病の伝染は孢子 (夏孢子) による空気伝染で、伝染は非常に早く広範囲にわたる。さらに病徴発現から蔓延、枯死までのスピードが早い。重症株は枯死に至るため大幅な減収につながる。なお、本病は空気伝染以外の、種子、土壤、水媒、虫媒伝染は確認されていない。
 - (2) 黄さび病菌は、オオムギ菌とコムギ菌で生態種が異なり、オオムギ菌はコムギを侵さず、コムギ菌はオオムギを侵さない。
 - (3) 黄さび病菌は高温に弱く、日本 (北海道以外) での越夏は困難と考えられており、黄砂とともに中国大陸から飛来した夏孢子が発生源になると考えられている。本年、5 月に発生が確認されたのは、黄砂の飛来が 4 月 12、13 日に大量にあったことによると考えられる。
 - (4) 暖冬で、平年より降水量が多いと、コムギが軟弱に生育するため、罹病しやすく、多発の危険性が高くなる。

(5) 赤さび病を含むさび病類の中では、黄さび病は発病適温が低く（発病適温 10～15℃、赤さび病は 17～25℃）、最も早く発生する。

5 防除対策について

- (1) 多窒素条件で多発するので、適期播種を行い、適正な施肥管理を行う。
- (2) 暖冬、多雨の気象条件時には、圃場観察を行い、病斑の早期発見に努め、薬剤防除を実施する。赤さび病と比べて、本病の病勢の進展は急激で、蔓延が早いので、病斑を発見したら早期に薬剤散布を実施する。
- (3) 黄砂とともに飛来した夏胞子が発生源になることから、黄砂の情報にも注意を払い、圃場周りによる確認を含めて前項と同様の対策を実施する。
- (4) 薬剤散布を行う場合、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を遵守する。選定については「さび病」に適用のある薬剤を用いる（適用が「赤さび病」のみの薬剤は選ばないこと）。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先	兵庫県病害虫防除所	0790-47-1222
--------	-----------	--------------



写真1 黄さび病の病斑
葉脈に沿ってすじが入る(矢印)



写真2 黄さび病の初期の発生状況



写真3 赤さび病の病斑